

第3回豊川市文化財保存活用地域計画協議会 会議録

1 開催日時

令和5年7月7日（金） 午後1時30分から午後3時00分まで

2 開催場所

音羽文化ホール3階大会議室

3 出席した者の氏名

豊川市文化財保護審議会会長	片山 洋
愛知大学文学部教授	山田 邦明
豊橋技術科学大学教授	浅野 純一郎
御油松並木愛護会会長（御油松並木保存愛護団体）	天野 保幸
八幡町内会長	五味 靖仁
財賀寺住職（国県指定・国登録文化財所有者）	西本 全秀
豊川市観光協会専務理事兼事務局長	平賀 菜由美
豊川商工会議所事務局次長	佐原 圭子
愛知県県民文化局文化部文化芸術科文化財室主査	浅岡 宏司
豊川市市民部長	鈴木 智彦
豊川市産業環境部長	増田 孝道
豊川市都市整備部長	山本 英樹（代理 佐々木次長）
豊川市教育部長	前田 清彦

4 議題

- (1) 豊川市文化財保存活用地域計画（序章～第4章）について
- (2) 豊川市文化財保存活用地域計画（現状と課題の整理）について
- (3) その他

5 議題および議事の要旨

議題(1) 豊川市文化財保存活用地域計画（序章～第4章）について

事務局

・前回からの変更点として、目次構成を変えている。

<序章>

・計画の位置付けについて整理し直した。計画期間については、前回の資料から変更しており、第7次総合計画の更新時期に合わせて12年としている。長期に渡るので、中間見直しを入れた。進捗管理を毎年実施し、評価することを追加した。

・前回の意見に基づき、用語を定義し、文化財6類型には未指定文化財を含め、史話と伝承、戦争遺跡、産業遺跡を「その他」として整理している。

・SDGsとの関係を追加した。

<第1章>

・自然的・地理的環境のうち地質・地形について専門家に確認を依頼している。

・社会的環境について、関係部課に確認している。

・歴史的環境について、文化財保護審議会で協議している途中の状態となっている。

<第2章>

・文化財の特徴は、現在市内には276件の指定・登録文化財が所在しており、これらを地図に落とした。

・未指定文化財を398件抽出している。調査歴とともに一覧表として資料編でまとめる予定。

<第3章>

・ここでは豊川市の歴史文化を5つの特徴に整理した。

① 本宮山や豊川といった豊かな自然環境に育まれた歴史文化

② 古代三河国の中心として栄えた歴史文化

③ 交通の要衝として発展してきた歴史文化

④ 中世から近世の武家政権に営まれた歴史文化

⑤ 豊川海軍工廠をはじめとした近代の歩みを示す歴史文化

<第4章>

・豊川市の文化財に関する現状と課題の整理と将来像・方向性を整理した。

・将来像を前回の協議会では「人づくり」を主にするというので、言葉として入れたが、ハード面の整備が見えないことや文化庁から成果がわかりにくいという指摘もあり改めた。第6次総合計画の将来像に因み「輝くとよかわの未来に向けた歴史文化の継承」としている。

・多くに関係者と関わりながら保存活用をするという方向を表現するために、「ともに調べる」「ともに守る」「ともに伝える」「ともに楽しむ」を改め「ともに活かす」と、全ての方向性に「ともに」を加えている。

委員

歴史的記述については、再考を要する表現が多々ある。

委員

前回から改善が図れた内容となっているが、その中で、歴史的環境の記述は、後に出てくる歴史文化の特徴に沿った記述を入れた方がよいと思う。

課題の整理は、箇条書きにするなど読みやすさに配慮していただきたい。

- 事務局
委員 課題の整理については、分かりやすさに配慮する。
歴史的環境の中に通底するテーマがあれば読み手も分かりやすいのではないか。例えば、政治・交通・寺社・地域社会などの注目点に基づいて編成すれば読みやすくなると思う。もちろん、全ての時代に共通のテーマがあるわけではないので、そこは事務局の判断に任せるが。
- 委員 4つの方向性全てに「ともに」が入っているが、行政が中心となって市民とともに取り組むといったニュアンスを感じる。計画作成の背景と目的が、「地域全体で取り組む」などの説明があった。市民も主役であり、行政は全力で支援する表現になるとよい。
- 委員 市民に重点を置くことを意識してもらえれば良い。
- 委員 ともにと言われると自主的に取り組んでいきたい人にとっては、窮屈に感じてしまうかもしれない。
- 事務局 行政としても、市民が中心となって取り組んでいってほしいと考えているので、そのよう内容が伝わるようにする。方向性としては市民が主役であることには変わりはないが、表現方法などについては改めて検討する。
- 委員 先行する他市では、YouTubeで地域住民が地元の祭りなどを紹介していたり、文化財の説明が聞けるアプリの中で学芸員だけでなく、地域住民や所有者が説明している事例などがある。市民が自発的に取り組めるようなアクションプランを目指してほしい。
また、歴史検定を行っている市では、問題自体は教育委員会が作成しているようだが、観光協会が実施主体となっている。このように、協働での取組が行われている具体的な例がある。
- 委員 アンケートについて、グラフを掲載するなど、視覚的に分かりやすい工夫をしてもらいたい。最終的に詳細も載せるとは思うが、アンケート結果や課題から見いだした将来像を大事にしていきたい。
また、未指定文化財についての記述をもう少しわかりやすくしていただきたい。
- 委員 他の計画との体系図が煩雑だ。本計画を中心に据えた体系図にしたほうがよい。
- 事務局 アンケート結果の掲載の仕方、未指定文化財の記述、計画の体系図について再検討する。
- 委員 本計画では活用が一番重要と思っているが、計画の中にその内容が少ないように思われる。アンケート調査結果では、文化財に触れる機会でも多かったのが地域の祭りとなっている。
現在、社寺などで月に数回マルシェが開催されているほか、御朱印巡り、各種体験プログラムなどが組まれている。また、多くの講座が生涯学習課でも開催されている。それらをエクセルなどの表形式で示せば、活用の具体的な内容がイメージしやすくなると思われる。
- 委員 計画書の最終的な章構成はどうなっているのか。この後も続くのか。
- 事務局 現在示した章構成の後に、具体的な措置の内容や関連文化財群・文化財保存活用区域などを追記する予定となっている。具体的な措置を示せていないので、活用にイメージが湧きにくくなっている。次回は示したい。
- 委員 おおまかでも全体の形が示せば、誤解を招くおそれが少なかったのでは

ないか。

委員 文化財の修理をしたら展示をすることなどが活用の第一歩だと考える。他部署との連携が必要だ。

事務局 議題2の現状と課題を整理し、他部署との連携を含め措置としてこれらを計画書に追記していく予定。

委員 この計画書に写真などがもっとあれば一般市民の資料としての価値も出せると思う。

事務局 次回までには写真など入れるようにする。

委員 私は他市の地域計画作成にも携わった経験がある。第2章までがイントロダクションであり、ここまでで文化財に魅力を感じてもらうことが重要で、一般市民が抱いている市のイメージと結びついた分かりやすいワードを選別することで、市の特色を前面に打ち出していた。豊川市ではまだそれが見えづらい。全ての文化財を総花的に紹介するのではなく、ある程度メリハリをつけることが大事だと思う。どこに焦点を当てて魅力を発信するのか。そのことを念頭に置きながら、計画書の構成を考えた方が良い。

委員 最初から絞りすぎるのは良くないが、豊川市独自の特徴を念頭に置きながら作成しないと、一般市民の印象に残らない。

委員 確かに、普通は歴史を年代順に並べがちだが、視点を変えて再考してみることが必要かもしれない。

委員 特徴⑤「豊川海軍工廠をはじめとした本市の近現代の歩みを示す歴史文化」について、海軍工廠は特殊な存在であり、甚大な被害を受けたにもかかわらず、豊川市は戦災復興都市になっていない。このような戦災復興でない方法でまちが形成された事例は、非常に特殊だ。海軍工廠を市の特徴として取り上げるのであれば、他市と比較してはどうか。豊川市の新たな特徴を見出すことができると思う。

事務局 改めて整理して、次回には完成度を高めた資料を示せるように修正する。

議題(2) 豊川市文化財保存活用地域計画（現状と課題の整理）について

事務局 4つの方向性における具体的な事業をまとめている。それらを措置として計画書に盛り込んでいく。基本的には実施主体が生涯学習課になるものが多いが、事業内容によっては様々な主体と連携していくことも想定している。

委員 SDGsとの関係が示されているので、各事業との紐付けができるとういと思う。

委員 今年は市制施行80周年だ。財賀寺は来年開創1300年、松並木指定80年、豊川稲荷の大開帳も2030年に控えている。そのような記念となる年を市民が意識することが大事だと思う。それを意識させられるような内容の記載を検討してほしい。

事務局 表記の仕方について検討する。

委員 「情報発信の充実」について、単にWi-Fi環境を整備するだけでなく、ITを活用することで学べる機会を創出することが大事だ。また、情報発信の手段を多言語化する配慮も必要だ。最近、外国人の方が熱心であるにも関わらず、情報発信等の手段が遅れている。

郷土史研究会や郷土史家などが市内に存在するのであれば、そのような団

体や個人と連携することが必要だと考える。

委員

御油町内には、御油歴史研究会があり、毎月4頁程度の冊子を作成し、配布している。今年で3年目になる。

委員

三河には、三河地域史研究会などの学術研究会がある。その中に豊川市民も数名いる。新しい研究成果に触れる機会を近場に作ることも重要だと思う。

委員

今年は「どうする家康」が大河ドラマで放送されており、来年は紫式部が取り上げられる。紫式部といえば大江定基も関わってくる。世間の注目が集まる機会を利用し、これらをテーマに歴史研究や発表の場を設けることができれば効果が高まるのではないか。

事務局

現状では地域の団体活動を十分に把握できていない。そのような方々から協力を仰ぐことが必要だと思う。また、団体が自主的に活動できる支援も必要だと考えている。指定文化財に限らず、幅広く交流を図っていきたい。

委員

市民を中心とした視点で考え、その考えに立脚した活用方法を検討すれば良いのではないか。

委員

アンケート結果から、知っている文化財や大事にしたい文化財が明らかになっている。これを参考にするのもよい。

事務局

次回のスケジュールについては、当初11月としていたが、10月に開催したい。本日の意見等を踏まえ、修正を図る。

以上